

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900479		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ船橋		
所在地	千葉県船橋市行田町77番地		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和2年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の健康の変化にいち早く気づき、入院や退去にならない様最大限の気づき力を持って利用者様の生活を見守る事に重点を置いています。介護施設という概念ではなく、我が家と思って頂けるよう自立支援を基調の上、利用者様と従業者が家族のような関係性がある施設構築を目指しています。アピールポイントとしては、入居されました利用者様が生活を続けていく中で、健康状態の回復や認知症状の改善が多くの利用者様にみられ、施設としてのケアの方向性が間違っていないかと思われる事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)施設長はコロナ禍の今は特に、入居者一人ひとりの健康の変化にいち早く気づくことに力を入れている。2)我が家と思って安心して生活して頂けるよう、入居者はもちろん職員同士も含めて「人に優しく」を心がけ、「ありがとう」の気持ちを常に持って接し、入居者一人ひとりの自立支援をチームワークよく実践している。3)家族との信頼度の高さがアンケートに表れている。4)ホーム内30分研修、本社研修所での研修、資格取得研修補助など職員育成制度が整っており、ワークライフバランスへの配慮など働きやすい環境づくりに努めている。5)コロナ禍であるにもかかわらず入居者と職員の明るく楽しそうな会話と笑い声が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念『心を一つに笑顔で思いやりのある介護』、施設の理念『笑顔で挨拶優しい介護』を全職員で実施し、弱者を守る意識を強く持ち、人に優しく心をかけています。	法人の理念に基づき「笑顔で挨拶、優しい介護」とのホームの理念を掲げ全職員で共有し実践に努めている。特に入居者はもちろん職員同士も含めて「人に優しく」を心がけ、「ありがとう」の気持ちを常に持って接することに力を入れ、気づき力を磨くことに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新たに『塚田の会』を発足し、地域の包括や同業他社、医療、居宅事務所等の連携が令和2年2月より開始されました。保育園や小学校との関係も保ち、近隣の住民の方との交流も増えています。	地域包括、他介護事業所、クリニックと居宅介護事業所が連携して昨年2月に「塚田の会」を立ち上げた。地域の方から介護に関する問い合わせも増えてきていた。また近隣の保育園や小学校との交流も盛んにおこなわれていた。コロナ禍終息後の交流に期待が持てる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民から介護に関する問い合わせや近隣の同業者からの介護に関する問い合わせが増えています。微力ながら誰かの為になる活動を続けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度の会議開催は初回より新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止をしていますが、議事録的なものはご家族・関係者には送っています。昨年度までの意見を反映するよう努めています。	民生委員、地域包括・在宅支援センター職員、家族などが参加して入居者・職員状況、ヒヤリハット事故事例、行事報告や身体拘束廃止委員会報告などを議題として開催していた。今年度はコロナ禍のため書面開催となっている。議事録は家族と関係者には送付している。	これまでの参加者にレジメと議事録とともにテーマを決めてアンケート方式の回答用紙を同封するなど、意見や要望を返信頂けるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍にあり、市町村との連携は通年よりは減ってはいますが、コロナ関係での連携は増えています。	指導監査課の担当者との連携が主で、特にコロナ関係、PCR検査や慰労金の件などなどの問い合わせなどでの連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の観点から行っています。年2回以上の身体拘束に関する研修も行い、ケアも実践しています。	職場30分研修計画に組み入れ、身体拘束廃止のための取り組みに関する研修を実施している。また、身体拘束適正化委員会を2ヶ月に一度開催し、ユーチューブを使って具体的な事例についての研修も行っている。ベッドからの転落防止に4点柵を使用することについて皆で話し合い、使用せずに対応するなど拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の虐待防止に関する研修を開催し、職員の意識改革にも努めています。運営推進会議等の場面では必ず報告も行っています。 2/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人様・保佐人様とのコミュニケーションや交流を増やし新しい情報が入るよう心がけています。高齢者権利擁護の研修や支援の必要性を常に学ぶ姿勢でいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には過去に問題となった事例等を挙げるなどして分かりやすい工夫をしています。重要な個所は必ず読み合わせを行い不明点が無いよう説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・利用者様から出された意見はミーティングにて話し合い、可能なものは日常のケアや業務に反映しています。	毎月の報告書に施設長やケアマネ、担当職員のコメントと共に今月の様子、今月行ったことなどコメントを付けたカラー写真を送付し、面会のできない今、家族から喜ばれている。運営推進会議の他、毎年家族会を開催し、意見や要望を言って頂く機会とし、要望や指摘頂いたことに対応していたが、コロナ禍のため開催できていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議や管理者及び管理者補佐が1ON1ミーティングを行い、意見聴取からの業務反映に結びつけています。、	毎月の全体会議だけでなく、管理者補佐(オフィサー)と職員との1ON1ミーティングで、体調、勤務形態、困っていることや今後の展望など職員からの忌憚のない意見や要望を聴き記録にも残し、管理者を中心に運営に反映させている。職場30分研修を計画的に実施し職員のスキル向上に取り組んでいる。「人を育てる」を社是として掲げ、本社に研修所もあり、アロー制度、正社員登用制度、キャリア評価制度や実践者研修、介護スキルアップ研修や資格取得研修受講を奨励し手当も支給するなど仕組みが整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社事業規定より、定期的に公平な人事評価を行っています。その結果から適材適所となるような業務分担を行っています。メンタルヘルスの相談窓口も設置しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全社アロー制度というシステムを構築し、オフィサー・マイスター・クリエイターを選任し、管理者が請け負っていた業務を分担し学ぶ制度を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市GH連絡会に所属し、研修や勉強会を通じて最新の情報を入手して交流と共に介護事業者としてのスキルアップに繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居以前にご本人・ご家族・他サービス事業者からの要望を聴いた上で、不安や心配事が取り除けるよう努力して信頼関係の構築が出来るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配事の原因・要因を細かく探り、ご家族との協力関係を最大限に活かしかケアを実施していくことで関係性を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	気づき力を最大限に発揮し、その時点で何が必要なのかを考察したうえで、支援に必要な対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のADLや個性を尊重し家事手伝いや季節の飾り物等の作業をお願いします。職員と共同での作業を通して関係性を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と希薄な利用者様は全面的に施設として支えています。ご家族が身近な利用者様にあつては、施設運営に協力いただけるよう発信を続けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外泊・外出は自由にできますが、3月以降は新型コロナウイルス感染予防の為、中止や自粛を余儀なくされています。月間報告で写真や生活の状況を送付しています。	面会・外出・外泊は自由にできることを伝え、近所のお友達が訪ねてきたり、家族とお墓参りや七五三のお祝いの会に出かけたり、自宅に外泊する方もいた。コロナ禍のため、3月以降は全て自粛して頂いている。今は馴染みの関係を継続できるよう、電話は希望があれば可能な限りお繋なぎし、手紙の投函などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	18名の入居者様の内、男性が1名と偏りがあります。皆様の生活の様子に応じて席替えを行うなどして、近からず遠からずの関わり合いが持てるよう緻密な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人・ご家族の要望や相談に対して、丁寧できめ細かな支援・対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人・ご家族からの聞き取りや会話・仕草から思いを汲み取れるよう、気づき力を高めるように努めています。	月に一度のミーティングの前に口頭や書面でスタッフとも確認し、利用者の意向や家族の意向を共有できるよう工夫しケアプランに反映している。業務日誌の中にケアプランを差し込むことでケース記録記入の際に閲覧できる状態にしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後の関係者等のお話から、生活履歴を把握し出来る限りの情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録し、変化に気づけるよう努めています。シフト勤務の為、申し送りをしっかり行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの要望を聴きとり、管理者・ケアマネ・職員・医療従事者が主体となりカンファレンスを行い、その時に適した介護計画を作成しています。	担当者会議にはなるべく集まれるようスタッフ間で調整し、課題などを事前に共有できるようヒアリングに努めている。ケアプランの変更部分は申し送りノートやモニタリング表、業務日誌に記録し共有している。医師と相談し状態が大きく変わった場合などはその都度電話連絡をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を残しています。特記すべきことを残し、職員全体が把握できるようにしています。記録をもとに介護計画に反映させケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの運営規定に基づき、柔軟で細やかな支援が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にあり、ボランティア等の支援を取り入れたいところではありますが、今年度は協働といった点では支援は出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の理解、承諾をいただいた上で、内科・精神科・眼科・歯科・皮膚科と医療連携し往診による受診を行っています。	週に1度の診療の際には、ケアマネージャーが同行できるように出勤調整をしている。その内容はスタッフ間で業務日誌や申し送りノートで共有し、家族には月間報告書で連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療や・介護に帯同し、情報や気づいた点を適切に伝えていきます。利用者様に急変があれば指示を仰いだり、処置を受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への連絡やご家族への連絡にて情報交換を行っています。介護サマリーや診療情報提供書を入院時にスムーズに提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針を示し、内容を十分にご理解して頂いた上で、入居契約を結んでいます。	看取りを実施しているため、契約時に重度化及び看取り介護における対応についての同意書を説明し記入してもらっている。重度化の際には担当医師から説明をもらい、管理者や家族と話し合いを行った上で対応を適宜検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示や施設内研修により、急変や事故発生時の対応に備えています。定期的な訓練は行っていませんが予兆がある場合は申し送り・申し伝えを随時行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行い、内1回は夜間を想定した訓練をしています。職員の緊急連絡網を準備し、災害時の職員への連絡が可能であり、町内会長との協力体制を築いています。	○〇から出火を想定した防火訓練は、コロナ禍で行えていない。有事に備えて水やレトルト食品の備蓄をしている。賞味期限の近いものは食事に提供するなど管理している。	消防訓練や避難訓練など、緊急時の対応は避難誘導からマニュアルの点検まで定期的実施していくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様に対し、経緯をもって尊重した言葉・態度で行動しています。経験年数の短い職員、力不足の職員に対しては面談・指導を行い改善に努めています。	自分の意思を伝えられない人には、職員が意思を細かく汲み取れるよう、工夫をしている。リハビリ体操や口腔体操、ミニレクなどを実施し声を出してもらったり、水分を取らなくなった方には甘みの効いたドリンクなどを摂取してもらうなど工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の意思をうまく伝えられない利用者様には、選択肢を複数用意し、意思を引き出せる様に努め、スピーチロックを根絶するよう、職員に教育を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が、その時にしたいことを極力否定せずに叶えられる様、職員は柔軟な姿勢で職務に当たるよう努めており、教育もしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の個性を尊重しています。可能な限りリクエストに応え、買い物も可能なら動向にて購入もします。ご家族にもその時々のお好み伝えていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	届いた食材を可能な限り利用者様の好みに合うよう工夫して調理提供しています。食材の包丁入れや食器の片付けなど、出来る事は自分でい生活感を忘れない様にしています。	3食とも手作りでの食事の提供をし、一人ひとりに合わせたきざみ食やとろみ食を提供している。外食が難しい中、おやつの中にはお汁粉、焼き芋、ホットケーキを皆で作るなどで工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師の指導の下、職員が責任をもって提供する支援を行っています。食事時間に制限は設けていません。衛生が保持できる範囲内で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存歯を維持できるよう、職員は口腔ケアに力を注いでいます。拒否があっても時間を変更したり介護者を代えるなどして口腔衛生保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な利用者様には定期的にトイレ誘導を行い支援を行っています。排泄の有無にかかわらず陰部洗浄を行い衛生保持に努めています。	尿・便意の訴えがない人には時間誘導を行い、なるべくトイレに誘導し、排泄・水分チェック表を使い管理している。排便の際には必ずウォッシュレットを使い陰部洗浄を行っている。便秘の人には医師の指示のもと下剤の調整も実施しトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量・水分量を増やし排便に繋がるよう努める一方、食材を細かくしたりお粥や乳製品を多くする工夫もしています。医療的には通便剤や座薬など医師の処方を使用して排便に至っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日2人又は3人の入浴支援を行っています。入浴する時間帯は決まっていますが、入浴時間は利用者様の心ゆく迄をモットーにしています。健康を害さない範囲での入浴をしています。	介助の必要な利用者には、リフト浴を使う、一回一回浴槽の湯を変える、入浴剤を入れる、保湿クリームは個別に分けるなど工夫をしている。ヒートショックに気をつけながら個別に入浴時間などは調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は大いに活動し、夜間帯は適度な疲労感で熟睡ができるように、日中の過ごし方を考えながら支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰が何のために何をどれだけ服薬しているのかを理解したうえで配薬し、間違いなく本人が飲まれたことを他職員が確認するよう誤薬防止に努めています。水分も適量を飲み切らせて頂きます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとに合った役割やレクリエーションを提供し、それが重荷にならない様、様子をみながら支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度の外出支援は新型コロナウイルス感染症予防の為控えており、利用者様全員が施設敷地内の散策に留まっています。ご家族との協力体制は一部構築されています。	天気の良い日はベランダに出て陽を浴びるなど、環境の変化に工夫をしている。コロナ禍以前は、ご家族様がいらっしゃる時には一緒に外出をしてもらうなど可能な範囲で外出できるように配慮していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の理解度や希望に沿って支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば可能な限りお繋ぎしています。手紙も書かれれば投函を無償で行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに掲示物を変更したり、季節の生花を飾るなどして季節感を演出しています。清掃消毒は日に複数回行い、お香を焚いたりしてアロマテラピー的なこともしています。	広い窓と明るさを生かして、ベランダで季節の花を植えたり、野菜を栽培したり工夫をしている。利用者と一緒に誕生日会の写真の展示なども行い季節感を感じられるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士のマッチングの様子観察から学び、席位置や席替えを行うことによって、その時々最良の配置をしています。それにより和やかな時間づくりを目指しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様ごとの身体的特徴を考慮し、家具やベッドの配置をご家族・職員間で話し合い工夫しています。転倒事故が起きない居室づくりを行っています。	入居時にはご家族様と相談し、仏壇やベッドなどご本人に配慮した部屋作りを工夫している。物などに躓くことがないよう、椅子などの配置など転倒予防にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の体力・視力・聴力・臭覚で感じる事が出来る、安全に配慮した掲示物や道具等で安心して暮らせる環境づくりをしています。		

目標達成計画

作成日:令和2年12月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	67	新型コロナウイルス感染予防の観点から、施設内でのイベントや散歩を含む外出等が大幅に制限されている状況下で、利用者様の体力低下や健康面、認知症の悪化、ストレスの蓄積を懸念しています。	職員・医療従事者・搬入業者・ご家族等からの新型コロナウイルス及び他感染症の持ち込みをしない様、注意対策を続けていきます。まずは利用者様が暮らせる場所の継続を挙げさせていただきます。	健康状態を細かにチェックし、早めの往診依頼をして対処しています。利用者様に合わせた食事を提供し、栄養状態を維持しています。施設内で可能な運動やレクリエーションを増やしています。	0ヶ月
2	68	新型コロナウイルス感染予防の観点から、ご家族・関係者様の面会は基本中止にしていますが、少なからず面会を希望される方もおり、対応に苦慮しています。高齢者介護施設にとって、感染者が出てしまった時の危機意識が無いご家族に対する対処にも困惑しています。	ご家族にとっては高齢者を預けて心配なのは理解出来ますので、施設にとって出入りの少ない日時に限って、制限・条件を設けた上で面会再開を行います。基本的には面会中止を継続です。	日曜日の昼食後からおやつ前までの時間が、医療等の出入りが比較的少なく、施設のにも若干の余裕があるので、10時半より10点の条件を満たされた方のみ玄関先で10分以内、2メートルの距離を確保した上で面会を再開しています。	0ヶ月
3	66	新型コロナウイルス感染予防の観点から、従業者にあつては自分が持ち込むわけにはいかないと、自ら移動等にも制限をかけて窮屈な生活を送っている者が多数おり、かなりのストレスを抱えています。	従業者が増えた分、有給休暇取得が容易になったので、リフレッシュ休暇を取って仕事への活力を失わない様にします。	有給休暇が取りやすくなったことを周知し、前年よりも有給休暇取得する従業者が増えています。	0ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。